

家族でおいもほり

秋空の下 イモ掘りに歓声



大きなイモあるかなー

日高学区市民自治会主催の、サツマイモ掘りを10月21日に日高交流センター西側の畑で開催しました。自治会青少年育成部・有志の手で5月に苗植えを実施し、暑いなか数回の草引きなど丹精を込めて育てた約500本のイモを掘りました。今年の夏は猛

暑であつたせいか、例年になくイモが大きく育ち、蔓も同様に畑一杯に繁茂しました。事前準備の蔓切りにスタッフは苦勞してしました。

当日は、抜けるような青空に恵まれ、参加した9組約30人の親子は大きなイモに大喜びでした。イモが大きくすぎて子どもだけでは掘り起こすことができずスタッフ、親子が協力して掘っている姿が多く見られました。

レジ袋に好みのイモ10本を袋詰めし、最後は、市民自治会会長が朝早くから焼いたあつあつ、ほくほくのおいしい「焼きイモ」に舌つづみを打って解散となりました。

参加した親から「大きなイモにびっくりした」「楽

あの人 この人

小木津町
君島 信好さん
(72歳)



写真は大切な記録

君島さんは日立市で生まれ、日立市役所に勤務し、環境衛生課や郷土博物館などに配属され、記念図書館で定年を迎えました。

記念図書館に勤めていた時に、東日本大震災が発生しました。震災対応が続く中での退職だったそうです。

趣味として、昔は油絵を描いていましたが、30歳を過ぎたころから写真撮影に

魅力を感じ、今ではライフワークとなっているとのこと。

これまで写真集を3冊、自费出版しました。

一冊目は「日光・四季の移ろい」、2冊目は11月から3月まで白河市方面に何度も通って撮影し「白鳥福島にて2003-2012年」を出版しました。

3冊目は平成30年に出版

した「久慈川水系の四季」です。源流域である八溝山から河口までの写真集です。

そして現在は「日立の海岸をゆく」の題材で、伊師浜から久慈浜までの海岸を撮影した写真集を作成中とのこと。

また4人の子供さんに、たくさん思い出がつまったアルバムを、それぞれの結婚時に差し上げたそうです。

君島さんは「日立の桜を撮り終えたら、カメラ片手に小木津をぶらぶら歩き、そこで目にした光景を『じい散歩』と題した写真集にまとめられたらいいな」と話されていました。(増子功)

「来年も実施して欲しい」との感想がありました。親子の絆をより深めた秋のひと時となったようです。来年も実施を予定していただきますので、参加してみてもいいでしょうか。

ふるさと

郷土 ひたか (24)

小木津三大地蔵
(小木津浜のお地蔵さん)

小木津浜にはいくつのお地蔵さまがいる。

そのうちの一体は、小木津の三地蔵の一つである。旧街道と静原から降りて来る海沿いの道が交わるT字路の交差点近くを20メートル程登った丘の中腹、笹の茂みにすっぽりと覆われた木漏れ日の中に静かに立っている。



木漏れ日の中に立つ小木津浜のお地蔵さん

このお地蔵さんに関する資料は少ないものの、近くの古老によると、今から約70年前までこのお地蔵さん

東連津

東本宿支部長
木田 源一

思い起こせば私の支部長歴は2度目、都合6期目になる。最初は平成10年、支部分割(本宿、安良宿支部)時に、2年間3期、平成30年より3期である。その間の14年間は、先日鬼籍に入られた飯野隆弘氏に連続6期お願いした。氏から高齢を理由に支部長辞退の申し入れがあり、支部内で支

支部長としてなにができた

部長選定を進めたが、自薦他薦共選任に至らず、やむなく2度目を引き受けた事である。支部活動は、地域の活性化の柱だ。自治会本部が全体の活動指針を企画し、支部がそれに添った活動を進めるのが理想だと思ふ。最初の支部長時は、各年度末に役員を招集し、軽い飲食を伴い意見交換と懇親を図った。

コロナも落ち着いてきたことから、本部と連携した支部活動をした。

現在でも旧暦の6月10日には地蔵講が開かれ、地域の人によるお掃除のあと、宮司によるお祓いを行い、その後飲食しながら親睦を深めているそうだ。

津神社の本殿前から足元を見渡すと、小木津浜が眼下に見渡せ、改めて日高地区の自然の美しさを認識させられる。

編集後記

この度の豪雨による被害は、危機管理の甘さ、自然の猛威をまざまざと見せられる事となりました。慢心が引き起こした人災もあつたと感じています。震災から12年。身を引き締め、自然に真摯に向き合い、おごらない。そして起きた事をしっかりと後世に伝えて行かなければならないと改めて思う日となりました。

(菊池理可子)



小木津浜を見下ろしながら立つお地蔵さん